



司会をする船戸教授

イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：399千円

浜松市の中山間地域再生の可能性と課題についてのシンポジウム「2020まちむらリレーション市民交流会議～浜松の中山間地域の可能性を考える～」

目的・趣旨

本学の学生（船戸ゼミや「地域連携演習」である「引佐耕作隊」「佐久間耕作隊」の履修学生）や浜松市が2013年度から導入した浜松版の地域おこし協力隊である「浜松山里いきいき応援隊」による中山間地域における活動を紹介するとともに、このような大学生や地域外人材などの若者が一堂に会し、過疎が進行する浜松市の中山間地域の再生のために果たす可能性について議論する。こうして浜松の中山間地域づくりに本学が積極的に関わっていることを発信する。

日時・場所

2020年1月20日（月）
静岡文化芸術大学 講堂ならびに学生食堂

体制

（実施代表者） 文化政策学部 文化政策学科 教授 船戸 修一

共催・後援等

（共催） 浜松市役所 市民部 市民協働・地域政策課

内容

2020年1月20日（月）13時30分～16時50分、本学と浜松市役所（市民部 市民協働・地域政策課）との共催で、本学講堂において、浜松・中山間地域づくりシンポジウム「2020まちむらリレーション市民交流会議～浜松の中山間地域の可能性を考える～」を開催した。第一部は「山村の新たな価値と地域づくり」というタイトルで藻谷浩介さん（日本総合研究所 主席研究員）による基調講演であった。第2部は、前半が「若者による中山間地域づくり」として2つの事例発表、後半は「地元住民による中山間地域づくり」として2つの事例発表をした。前半は「静岡県立浜松湖北高等学校佐久間分校」による天竜区佐久間町の地元資源の竹を使った地域づくりの取り組み、本学の地域連携演習「引佐耕作隊」の学生による北区引佐町の棚田の耕作放棄地でのコメ作り・商品化の取り組みについての報告、後半は、天竜区熊地区で活動する「NPO法人夢未来くんま」の取り組み、同区水窪町で活動する「NPO法人こいねみさくぼ」の取り組みについての報告であった。



結果・成果

今回のシンポジウムの狙いは、以下3点ある。第1に、過疎化が進む中山間地域における資源の価値を見直し、今後の地域づくりにつなげていくことである。第2に、浜松の中山間地域づくりの担い手として「若者」に注目し、高齢化が進展する地域において若者が果たす可能性を報告することである。第3に、中山間地域のNPO活動の成果を市民に向けて広く発信することである。当日は本学（浜松市中区）での開催ということもあり、都市部住民の参加が多く、約180人の参加者を数えた。また本学の地域連携演習「引佐耕作隊」でお世話になっている北区引佐町久留女木地区の住民の参加もあった。次年度は、休日に開催することによって参加者の増加を企図したい。現在、浜松の中山間地域では様々な問題に直面している。このような問題の解決に取り組む住民の活動を幅広く発信し、今後の中山間地域づくりを構想する場として「まちむらリレーション市民交流会議」が果たす役割は大きい。次年度も、このようなシンポジウムを本学と浜松市によって共催し、本学による浜松の中山間地域への貢献可能性をアピールするだけでなく、この地域の住民へのエンパワーメントにもつなげていきたい。



会場の様子



本学学生「引佐耕作隊」による活動報告の様子



講堂ホワイエにおける「引佐耕作隊」のパネル展示の様子